



犬・笑・暮だより vol.99



犬フィラリア症についてのお話

今回は、春から夏にかけての厄介な寄生虫のお話です。ノミやダニももちろん困りますが、大事な家族の健康を守る上で、犬フィラリア症の予防は、飼い主さんが絶対責任を持ってあげたい重要なことのひとつです。

【感染経路・症状・治療・予防】

◆感染経路

蚊が媒介します。
感染している犬の血を蚊が吸うことにより、フィラリアの幼虫が蚊の体内に移動し、その蚊が健康な犬の血を吸う時に、感染できる状態に成長した虫が犬の体内に移動します。

◆症状

犬フィラリアという寄生虫は糸状の細長い形状をしていて、犬の肺動脈や心臓に寄生し、血流を悪くさせ様々な症状を引き起こします。元気や食欲がなくなり、咳をして呼吸が苦しようになります。

症状が進行すると、お腹が異常に膨らんできたり、血尿が出たりして、放置すれば死に至る怖い病気です。

◆治療

成虫が死ぬと血管に詰まったりして危険なので、薬で一辺に除去したりは出来ません。手術はかなりのリスクが伴い、また完全に寄生虫を除去できる可能性は高くありません。

つまり、治療に関しては効果的な決定打はありませんので、症状を軽減しながら犬の体力次第の対処療法になってしまうケースが多くなります。



◆予防

予防薬の飲み薬を毎月1回、1ヵ月間隔で摂取させることにより、体内に入り込んだ寄生虫を1ヵ月に1回一斉に殺してしまう方法が一般的です。

この寄生虫は成虫になり心臓などに寄生するまでに約2~3ヵ月かかる為、蚊が発生してから1ヵ月後に最初の薬を飲み、蚊を見かけなくなってから1ヵ月後に最後の薬を飲むことで100%予防することが出来ます。

蚊の発生時期が居住地域によって異なるので、投薬時期も居住地域で変わります。また、薬の量は犬の体重で変わりますので、しっかり獣医さんに相談して予防しましょう。

途中の投薬を忘れたり、最後の飲み薬を飲まないと、寄生虫は感染の危険性が高まりますので、自己判断は止めて獣医さんの指示に従ってください。また、既に感染してしまっているのに予防薬を飲むと、死んだ成虫が血管に詰まって危険です。毎年フィラリア予防を始める前に血液検査をするのがおすすめです。



愛犬に関するお住まい・お庭のお悩みは **庭遊館** にお気軽にご相談下さい

庭園工事・外構工事・管理・設計施工

株式会社 庭遊館

〒504-0945 各務原市那加日新町6-65

TEL 058-216-3110

FAX 058-216-3113

<http://www.teiyukan.jp>



携帯サイトはコチラ!!

